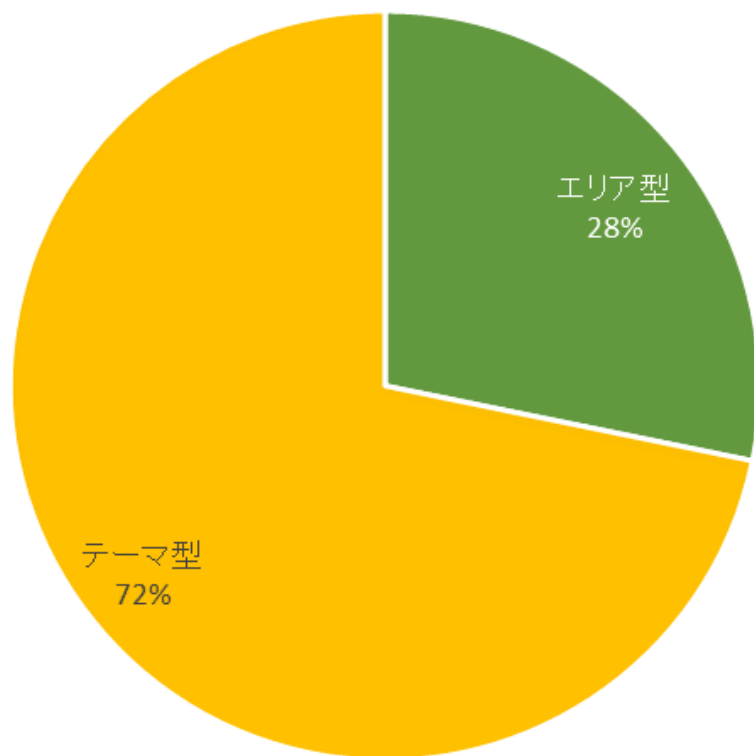


まちサポ登録団体 活動アンケート

活動アンケート 実施概要

- ・ 対 象：まちサポ登録団体 211団体
- ・ 時 期：2022年9月8日～2022年9月30日
- ・ 方 法：ウェブフォーム（希望者には郵送）
- ・ 回答数：78団体
- ・ 回答率：39.8%
- ・ 調査内容： 運営状況、活動満足度、団体の強みと課題、必要なサポート、他団体との連携可能性など

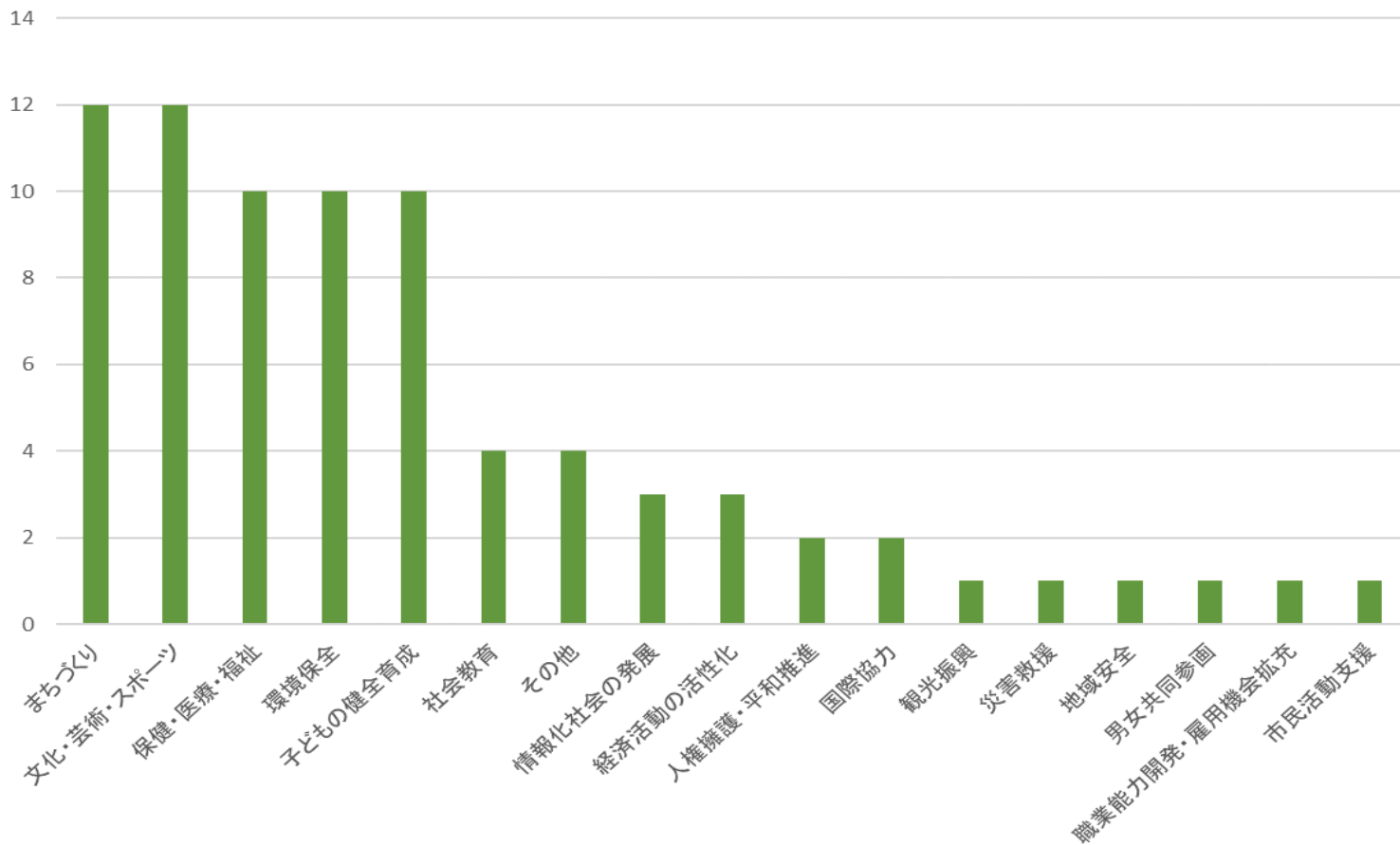
活動地域



アンケートに回答した登録団体（以下、回答団体）の活動地域について、活動地域・場所が明確な活動を「エリア型」、活動地域を問わない活動を「テーマ型」として分類したところ、「エリア型」の団体が28%、「テーマ型」の団体が72%だった。

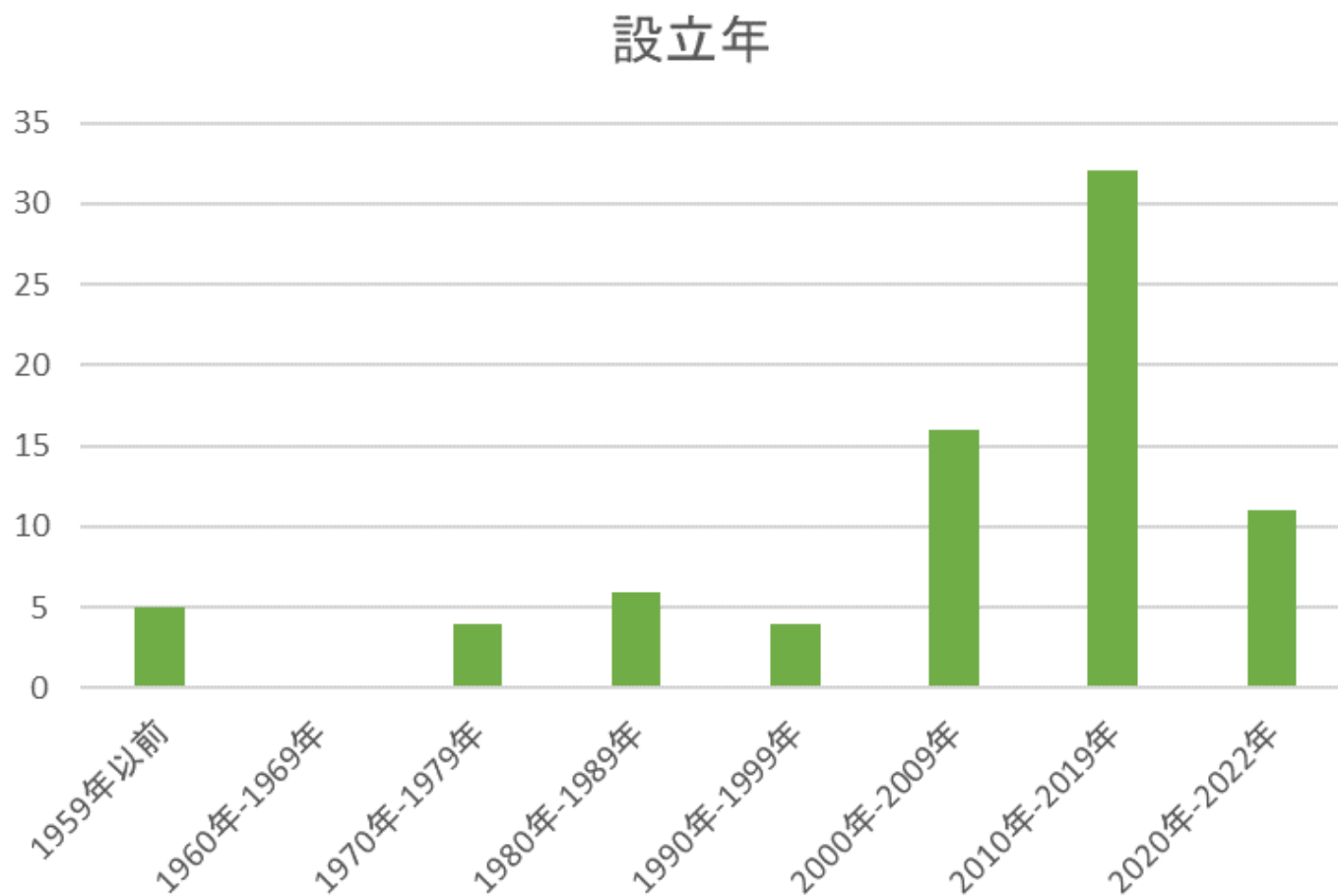
活動分野

回答団体の活動分野の内訳は、「まちづくり」「文化・芸術・スポーツ」が最も多くそれぞれ12団体で、「保健・医療・福祉」「環境保全」「子どもの健全育成」がそれぞれ10団体、それ以外は0団体～4団体の回答があった。



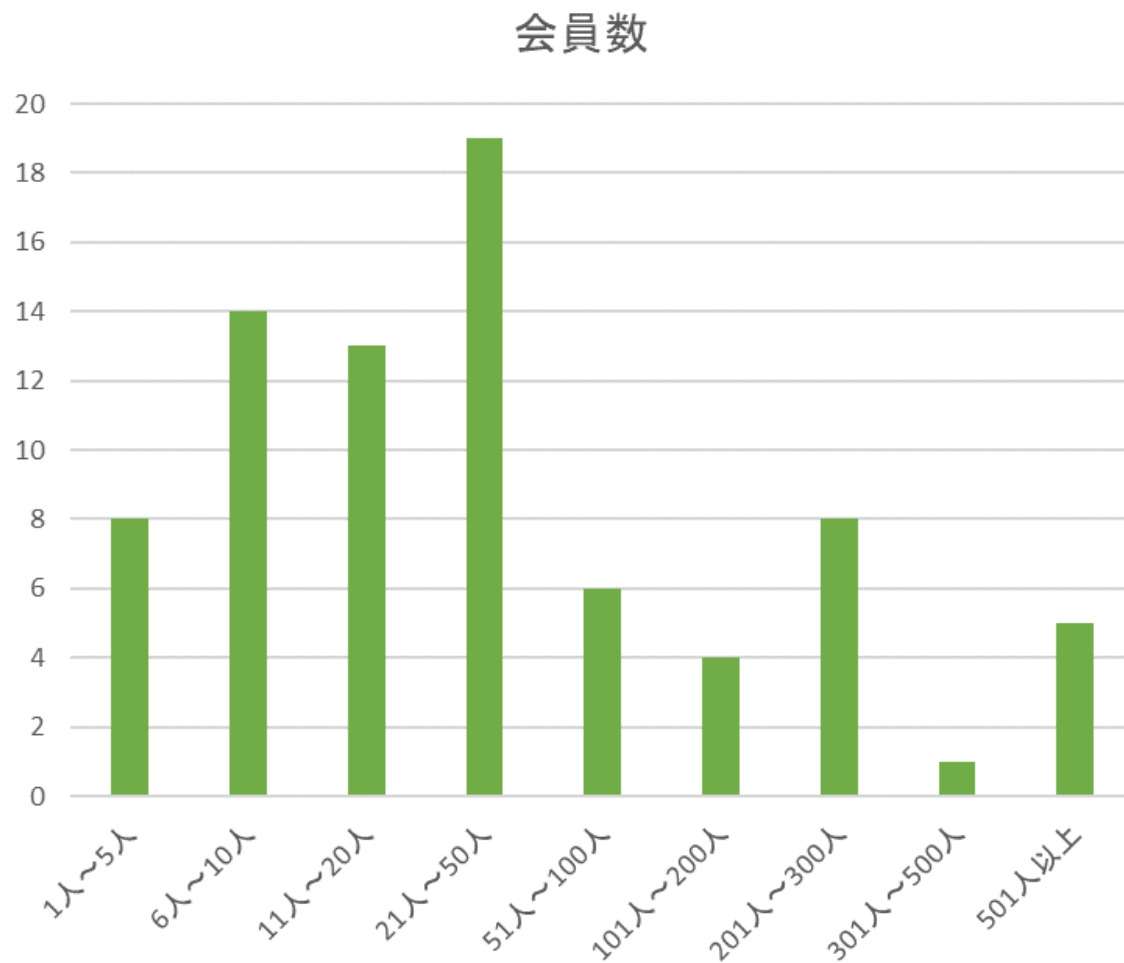
設立年

回答団体の設立年は、2000年以降が59団体で回答団体の75.6%を占めた。



会員数

回答団体の69.2%が、50人以下の団体だった。



コアメンバー

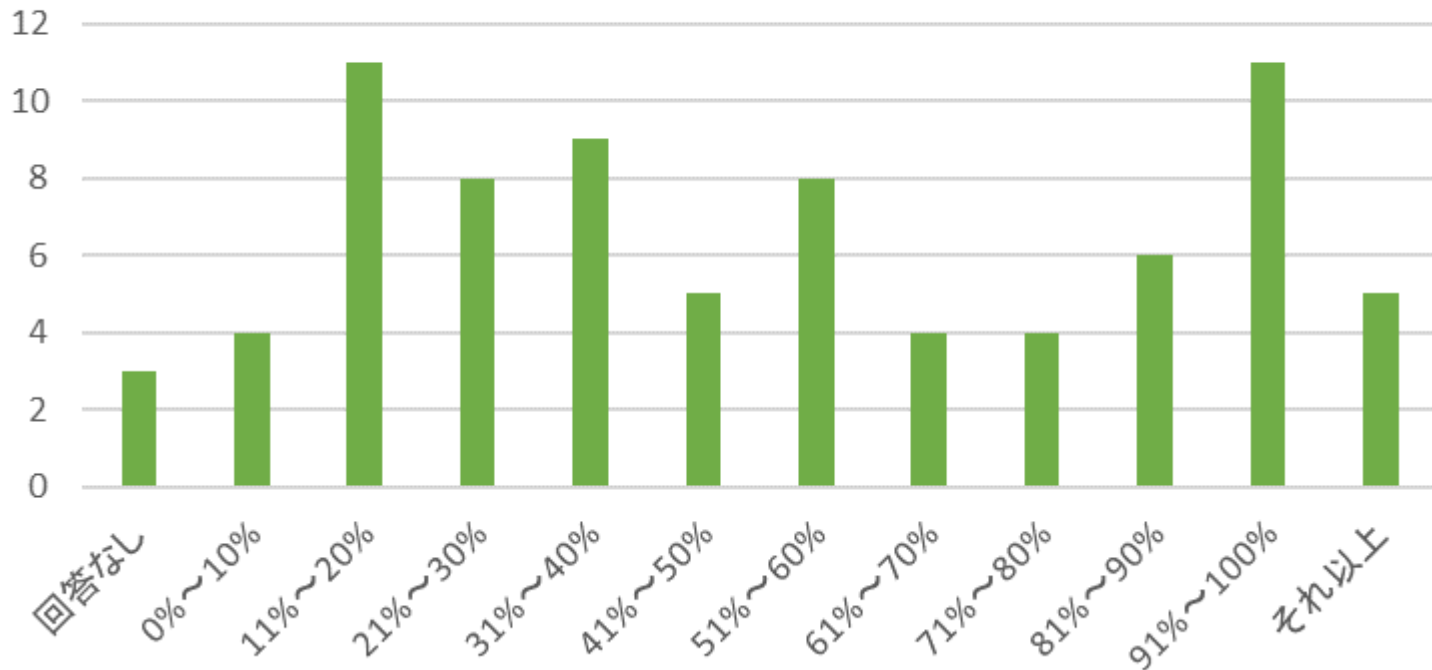
回答団体のコアメンバー人数で最も多いのは、2人～5人であり、回答団体のおよそ半分を占めた（コアメンバーとは、団体運営の核となる運営メンバーのことです）。



会員アクティブ度

会員のうち、実際に活動している会員数を、名簿上の会員数で割ったものを、「会員アクティブ度」とした。アクティブ度が20%前後と、100%近い団体と、二極が突出していることがわかった。（実際の活動会員数が、名簿上の会員数を上回って回答されるケースもあった。）

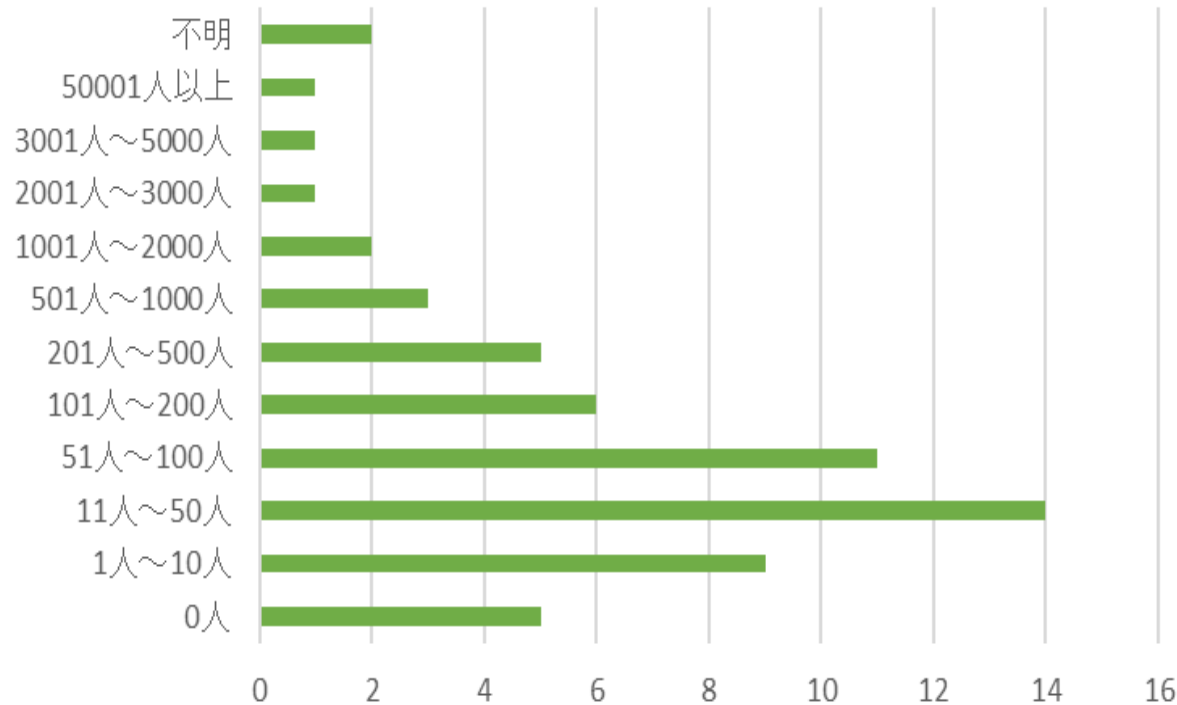
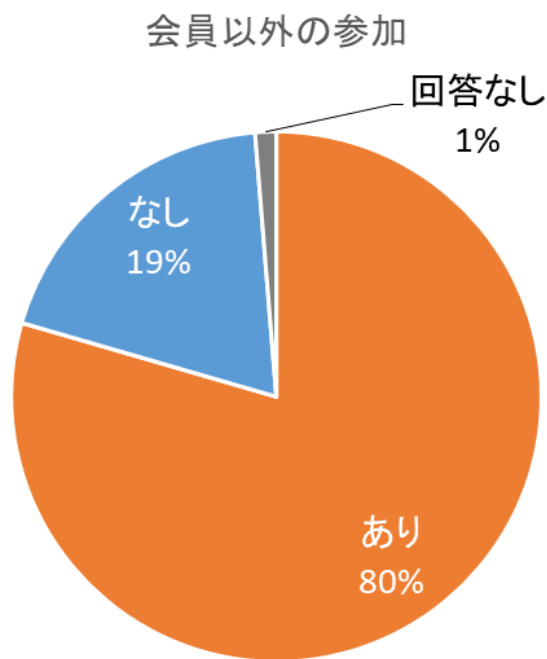
団体アクティブ度



会員以外の参加

活動に、会員以外が「参加する」と答えた団体は80%だった。会員以外の参加者の一年間での延べ人数は、最も多い団体で約8000人だった。

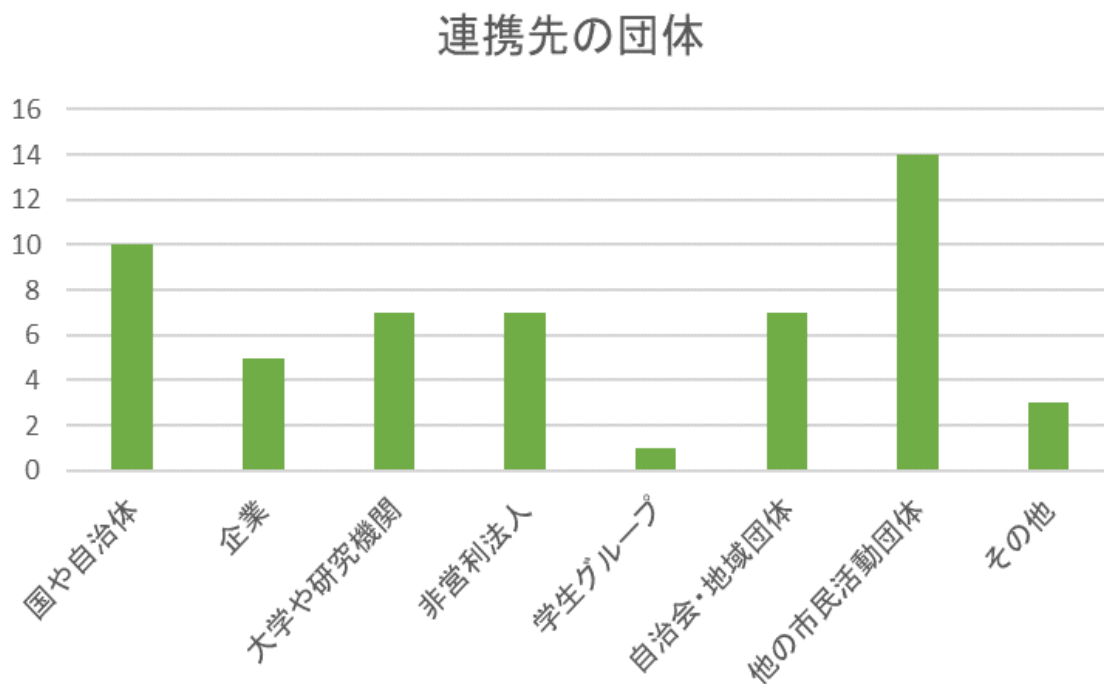
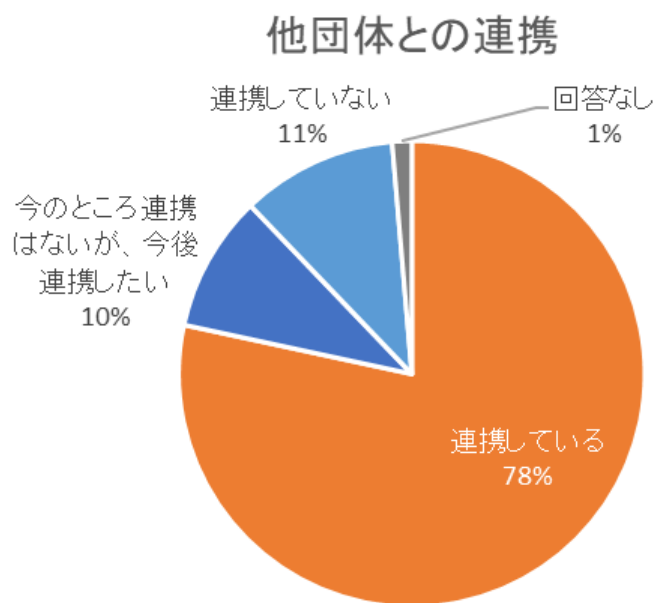
会員以外の参加者の1年間での延べ人数



他団体との連携

他団体との連携が「ある」と答えた団体は、回答団体の78%だった。連携先として最も多かったのは「他の市民活動団体」だった。（その他には、「小学校」「高校」「病院」が含まれていた）

※連携：一緒に活動をしたり、情報交換・共有している関係性）



他団体との連携

今後もちたい連携の具体的なイメージ

■専門性の高い人や団体

- ・植物や昆虫などに詳しい団体
- ・専門家
- ・昔ながらの生活の知恵を教えてくれる人
- ・空き家再生のノウハウを持った団体
- ・就労支援に関する施設
- ・内科病院

■外国籍の方

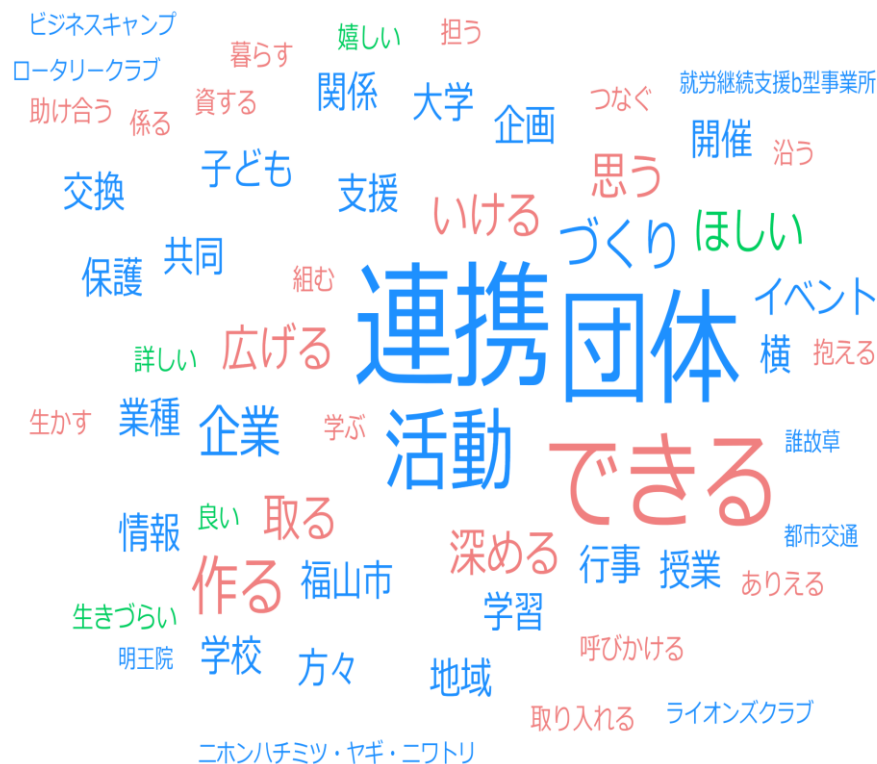
- ・子どもに関わる団体
- ・移動手段に関わる団体

■協力してくれる人や団体

- ・NPO法人の労務を担う企業
- ・発信力のある団体
- ・活動に興味を持って協力してくれる団体・企業

■さまざまな公的機関

- ・行政機関
- ・教育機関



代表の交代

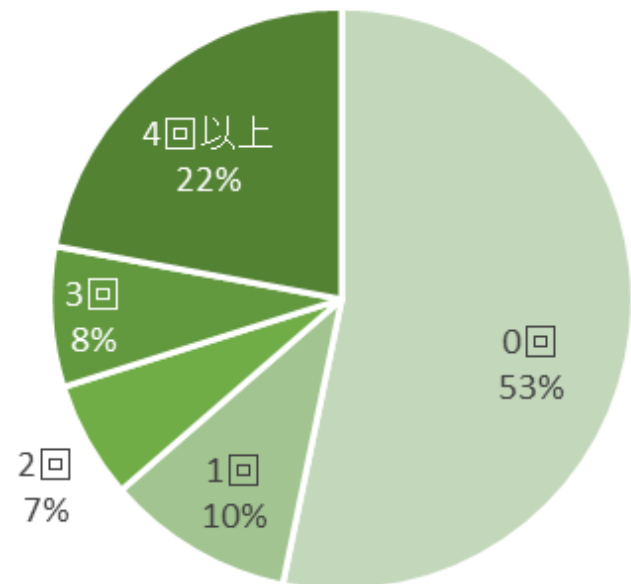
回答団体の53%が、これまで団体代表の交代が「一度もない」と回答した。

最長で37年間一度も交代していない団体もあれば、設立してから7年で4回以上交代している団体もあった。

また、代表の交代回数と団体の年数、会員アクティブ度などとの相関は見られなかった。

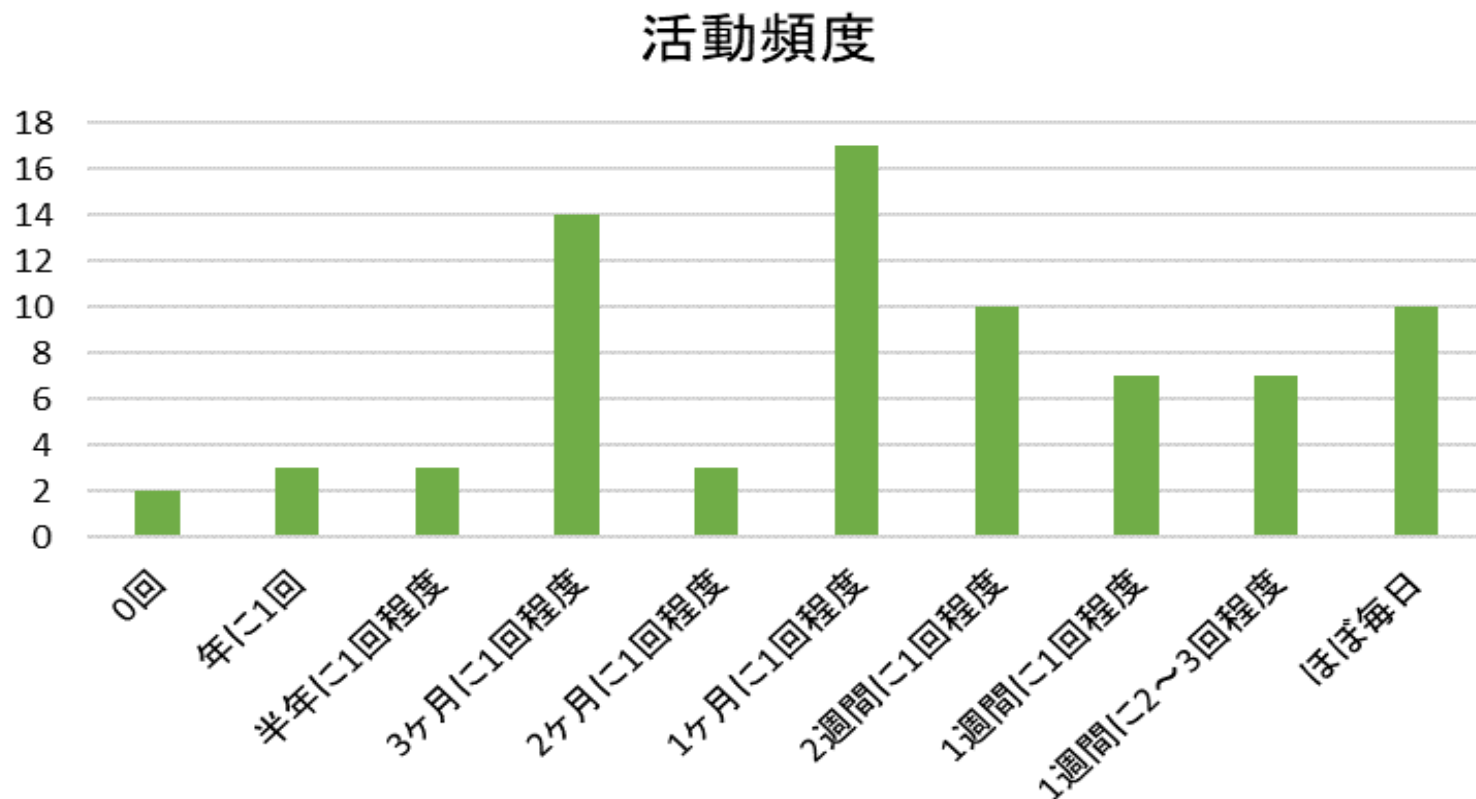
代表の継続年数について、別途質問があるとよかった。

代表の交代回数



活動頻度

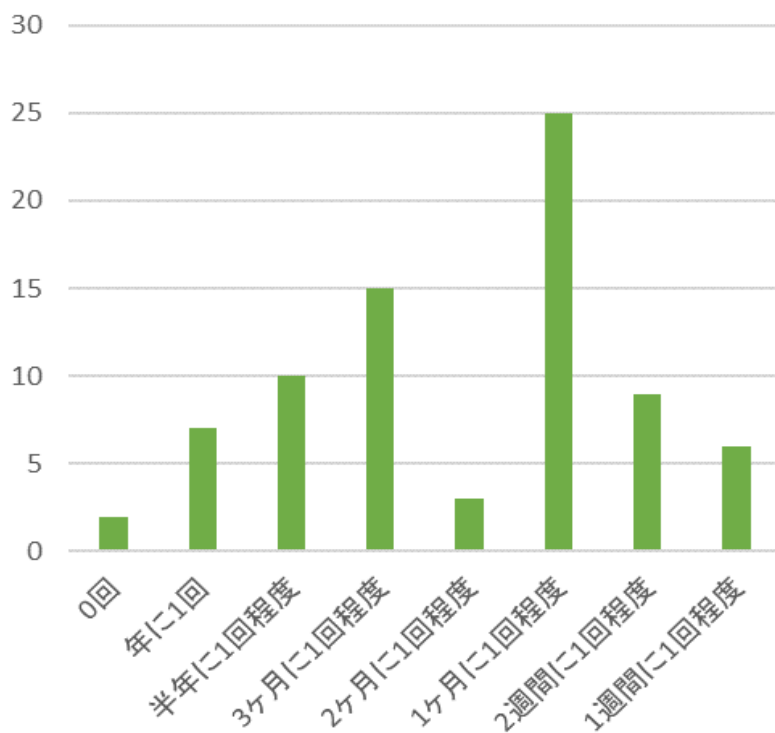
活動頻度で最も多かったのは、「1ヶ月に1回程度」だった。およそ半数が月に1回以上活動している。また、コロナ禍で活動ができておらず、この1年間での活動が「0回」という回答も見られた。



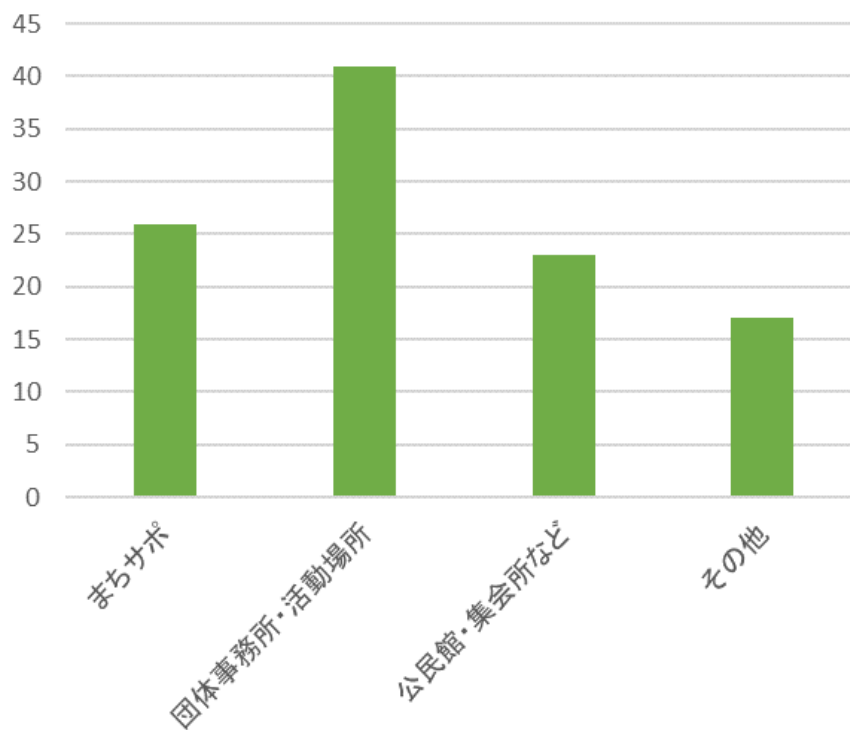
運営会議

団体運営のための会議の頻度は、「1ヶ月に1回程度」が最も多かった。その際の開催場所としては、「団体事務所・活動場所」が多く、「その他」のほとんどがオンライン会議だった。

運営のための会議頻度

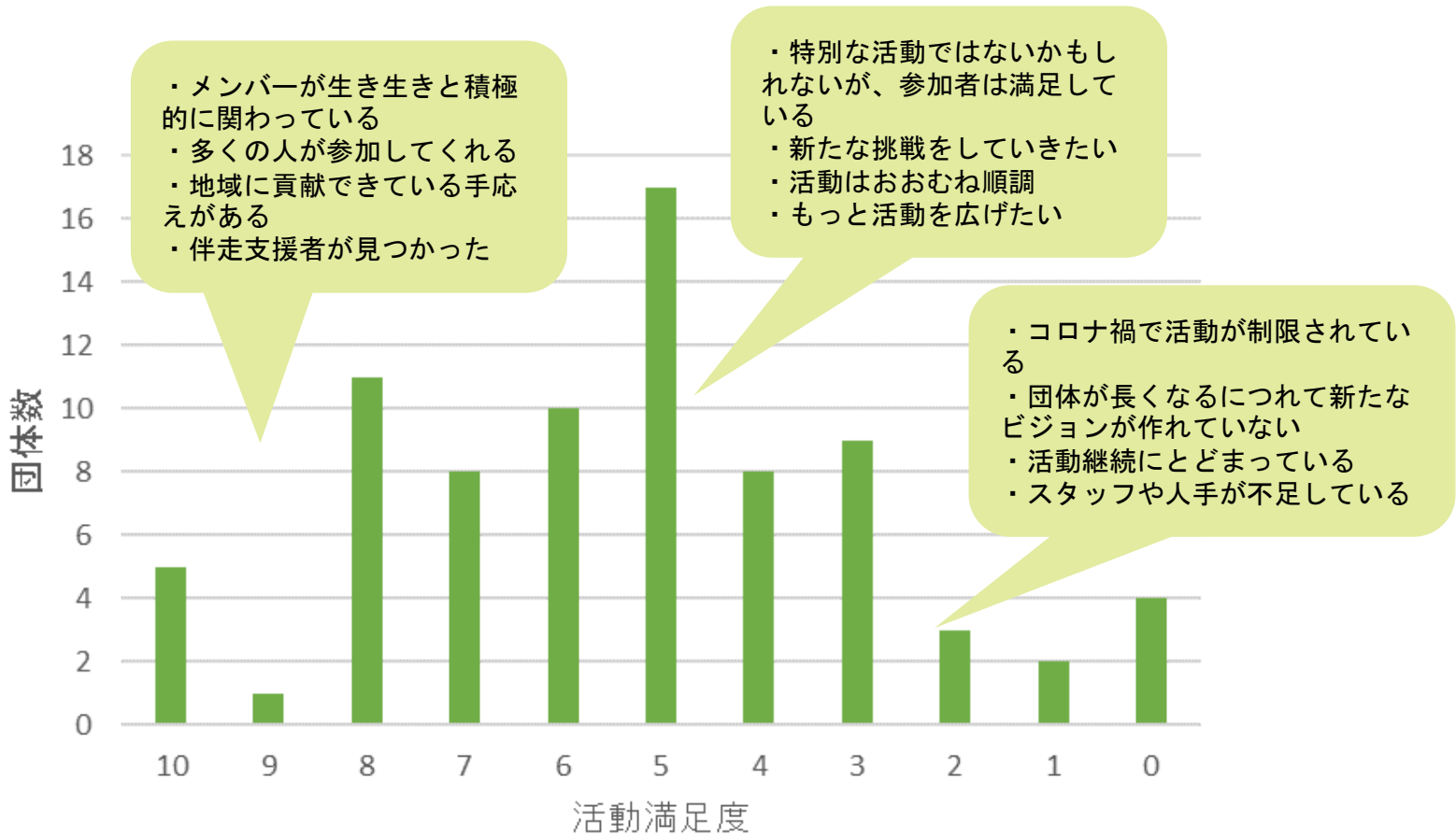


運営会議の開催場所



活動満足度

活動の理想の状態を10としたときの、今の活動状況については、「5」と答えた団体がもっとも多かった。満足度が高い団体・中くらいの団体・低い団体ごとに、回答理由を整理した。



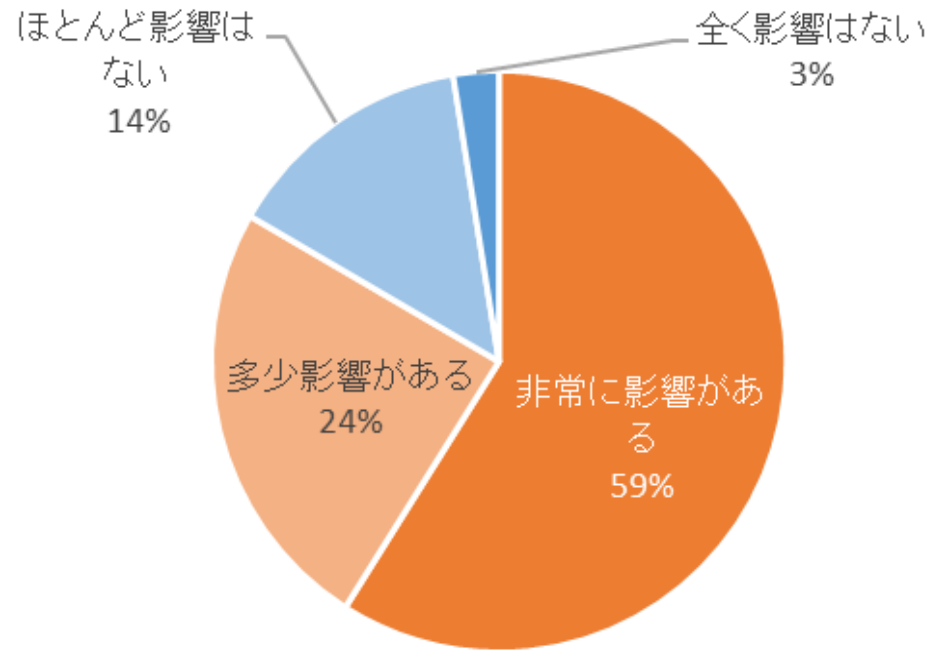
コロナ禍による影響

コロナ禍の活動への影響について、「非常に影響がある」と答えた団体は59%で、「高齢者が多い」「集まれない」「医療に従事している」といった理由があがった。

「ほとんど影響がない」と答えた団体の理由は、「屋外のため」「少人数のため」といったものがあがった。

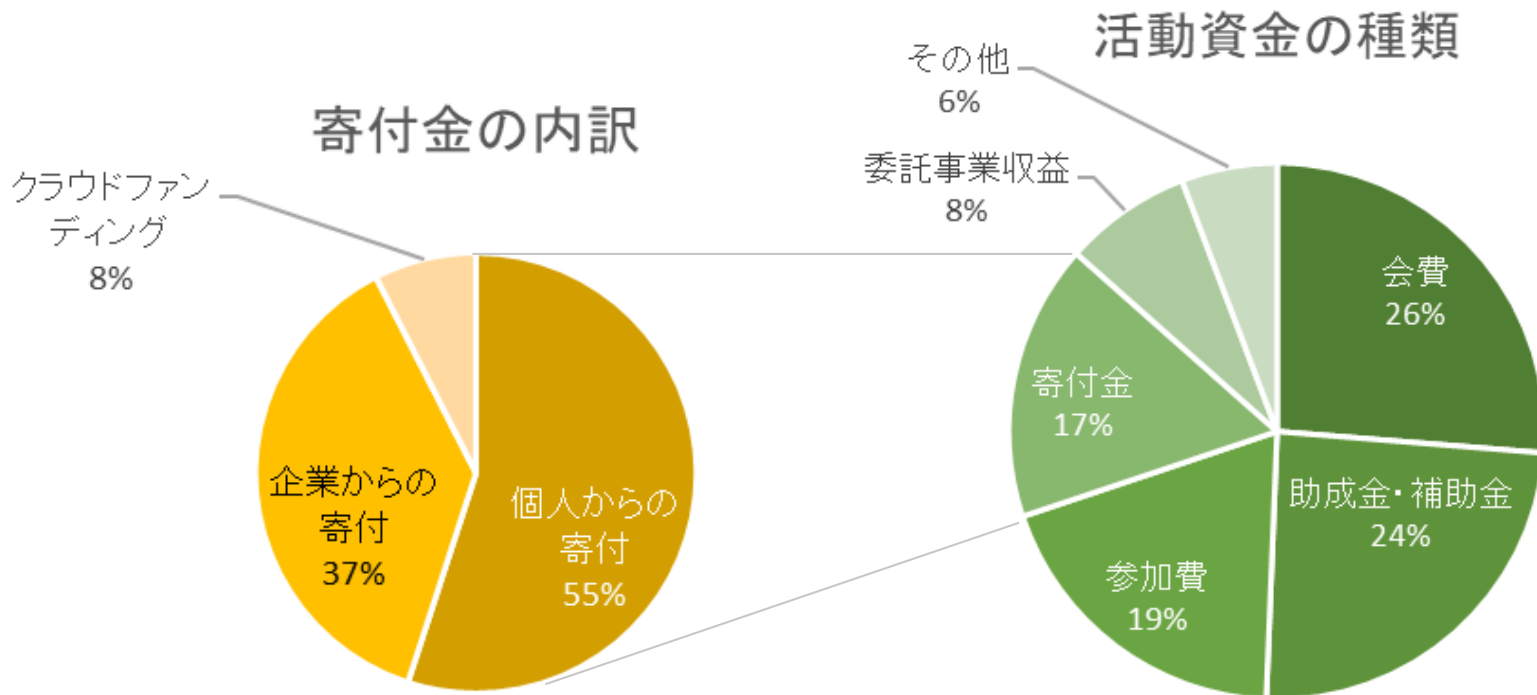
コロナ禍でも活動できるよう、活動を会員のみ限定したり、屋内中心から屋外中心に切り替えたり、といった工夫をしている団体も見られた。

コロナ禍の活動への影響



活動資金

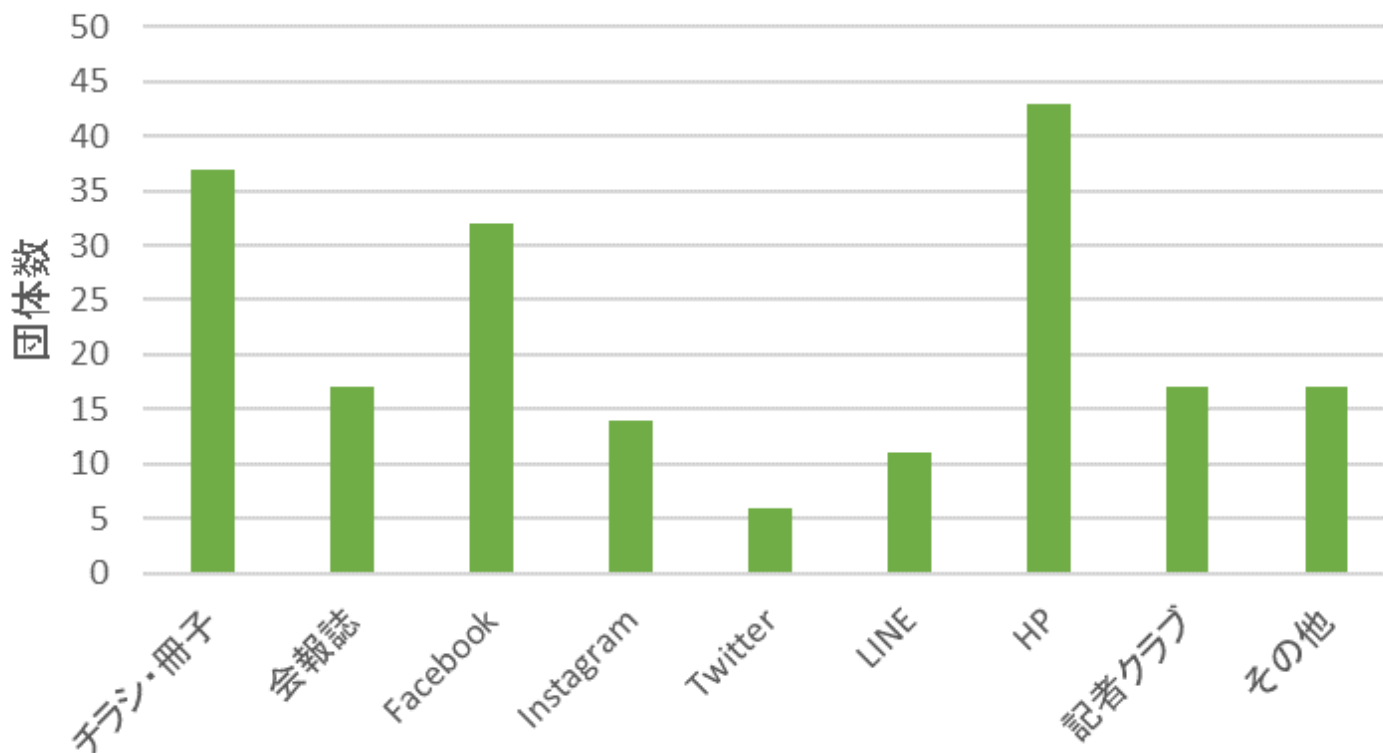
回答団体の活動資金の種類として、最も多かったのは「会費」で、次に「助成金・補助金」だった。「寄付金」の内訳は、「個人からの寄付」が半数以上を占め、「企業からの寄付」は4割弱だった。



情報発信

回答団体の約半数が「ホームページ」を所有。情報発信手段として次に多かったのは、「チラシ・冊子」、「Facebook」だった。（その他、「口コミ」「メールマガジン」も）

情報発信手段



ボランティア受入／他団体の手助け

ボランティア希望者を受け入れられる団体が7割あった。

■ 受け入れ時の条件の一例：

- ・活動に賛同してくれる人であれば
- ・専門性が高い方を必要としている

■ 受け入れが難しい理由：

- ・会の構成員を限定している（地域、学生、当事者など）ため
- ・特別なスキルを必要とするため
- ・活動を通じた交流を目的としているため

他団体の手助けができる団体が7割あった。

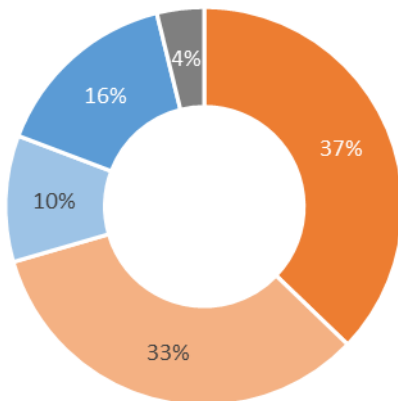
■ 提供時の条件の一例：

- ・無償・有償どちらも提供可能
- ・会の活動や活動地域の範囲内であれば可能

■ 提供が難しい理由：

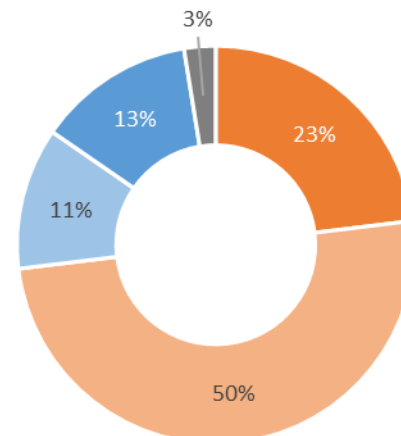
- ・高齢者が多い
- ・積極的に活動してくれる人が少ない
- ・自分たちの活動で精いっぱい
- ・趣味の活動なので提供できるスキルがない

ボランティアの受け入れ



- 受け入れ可能
- 条件によっては受け入れ可能
- 受け入れは現状難しいが今後検討したい
- 受け入れは難しい
- 無回答

他団体へのスキル・人材提供



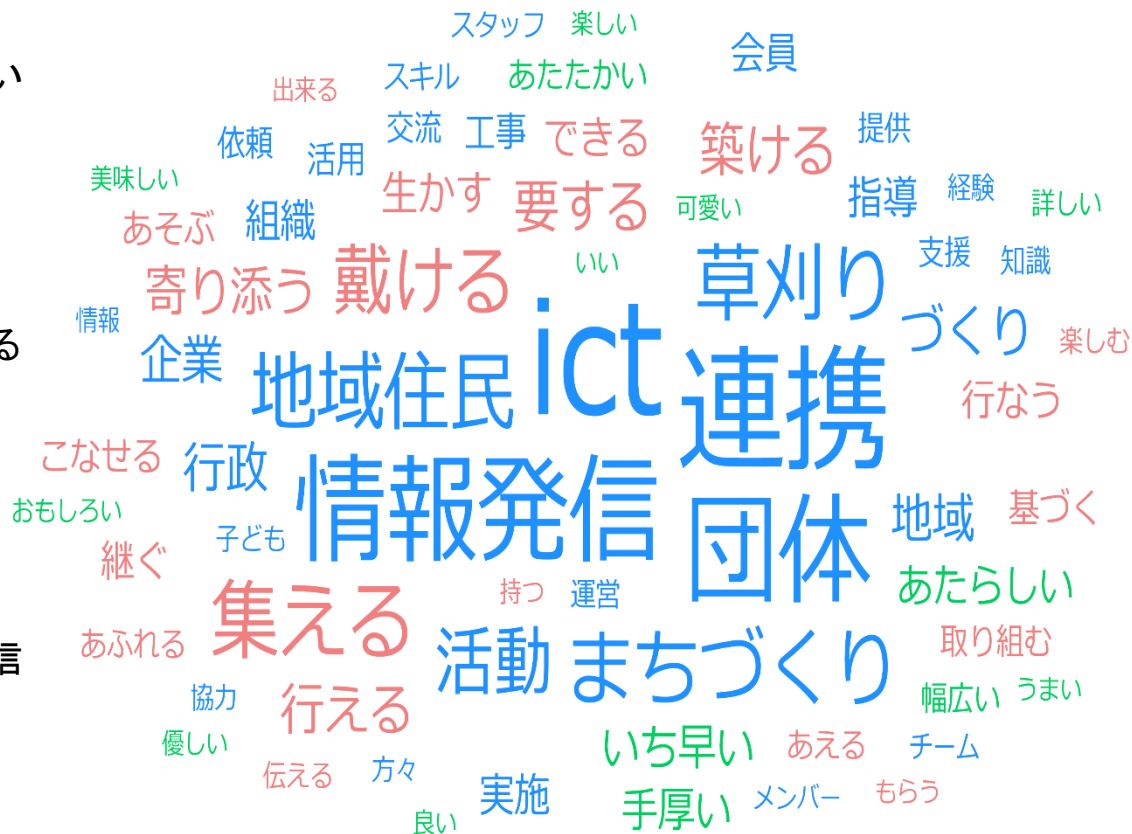
- 提供は可能
- 条件によっては提供可能
- 提供は現状難しいが今後検討したい
- 提供は難しい
- 無回答

各団体が「強み」と捉えていること

Q: 団体の強みやスキルを教えてください

* 主な回答

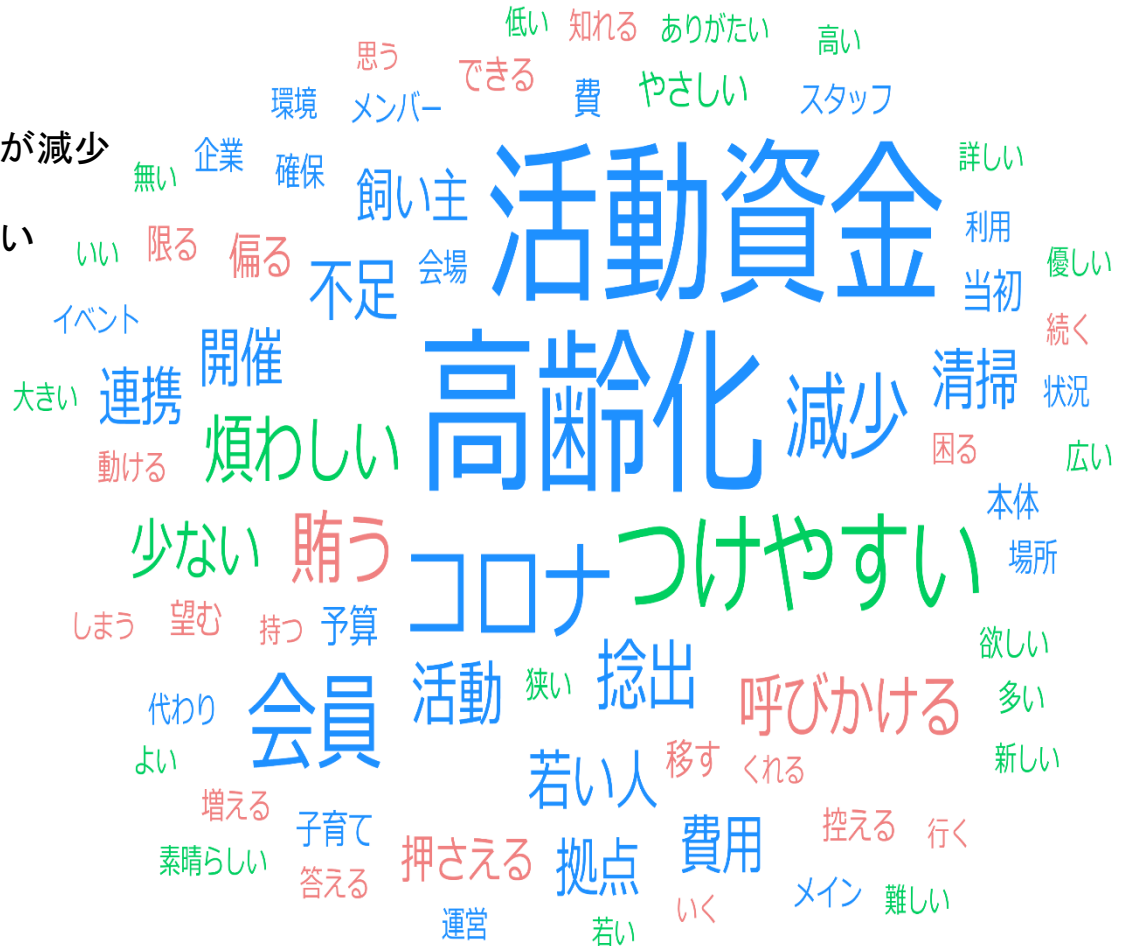
- ・幅広く地域活動している会員が多い
- ・商店街のイベントと連携が取れる
- ・地域団体との連携が取れている
- ・関連団体との連携ができています
- ・会員同士の連携ができています
- ・人を育てることができる
- ・国や市、企業との連携ができています
- ・SNSを活用している
- ・会員の方だけでなく参加も多い
- ・地域と小学生との交流ができる
- ・ファシリテーションができる
- ・チームワークがよい
- ・専門的な技術や知識がある
- ・インターネットを活用した情報発信とICTによる運営の効率化



各団体が活動の上で困っていること

* 主な回答

- ・若い人世代へのバトンタッチ
- ・世代間ギャップ
- ・コロナで行事の中止が多く、会員が減少
- ・後継者の不在
- ・積極的に活動してくれる人がいない
- ・会員の高齢化
- ・活動場所がない
- ・活動拠点の維持
- ・募集広告費用の捻出
- ・ICT技術を持った役員の不足

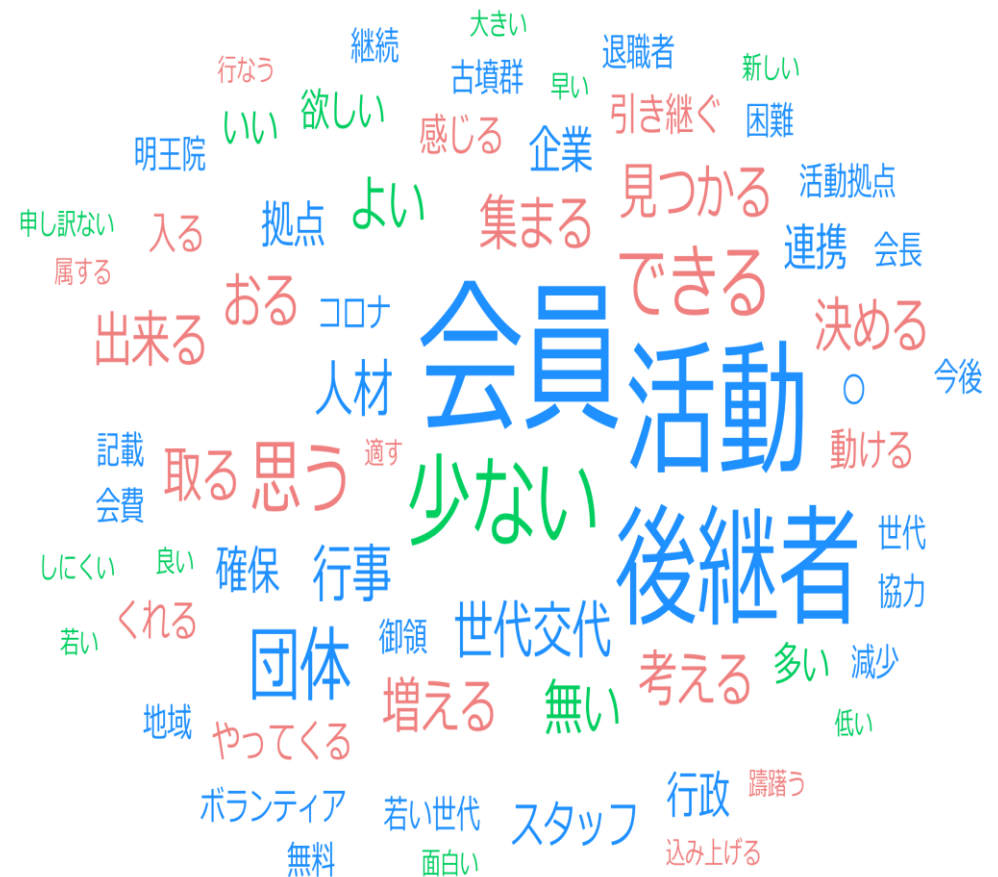


長期的な目標や展望について困っていること

Q: 今後の活動の継続や発展に関して、困っていることなどがあれば教えてください。

* 主な回答

- ・若いスタッフに入ってほしい
- ・参加費を取らずにやってきたが、このままでよいか悩む
- ・活動場所の移転が必要
- ・良い人材がいらない
- ・場所、資金、人材
- ・行政との連携
- ・医療機関との連携
- ・現役世代の活動に制限があり、リタイア世代からの世代交代が困難
- ・市中心部に会議室が少なく競合が多い
- ・後継者が見つからない
- ・新たなプレイヤーがなかなか現れない
- ・実動できるメンバーの減少
- ・活動をより効果的にできるアプリの作成と運用
- ・仲間がほしい
- ・活動を地域ぐるみに広げたい

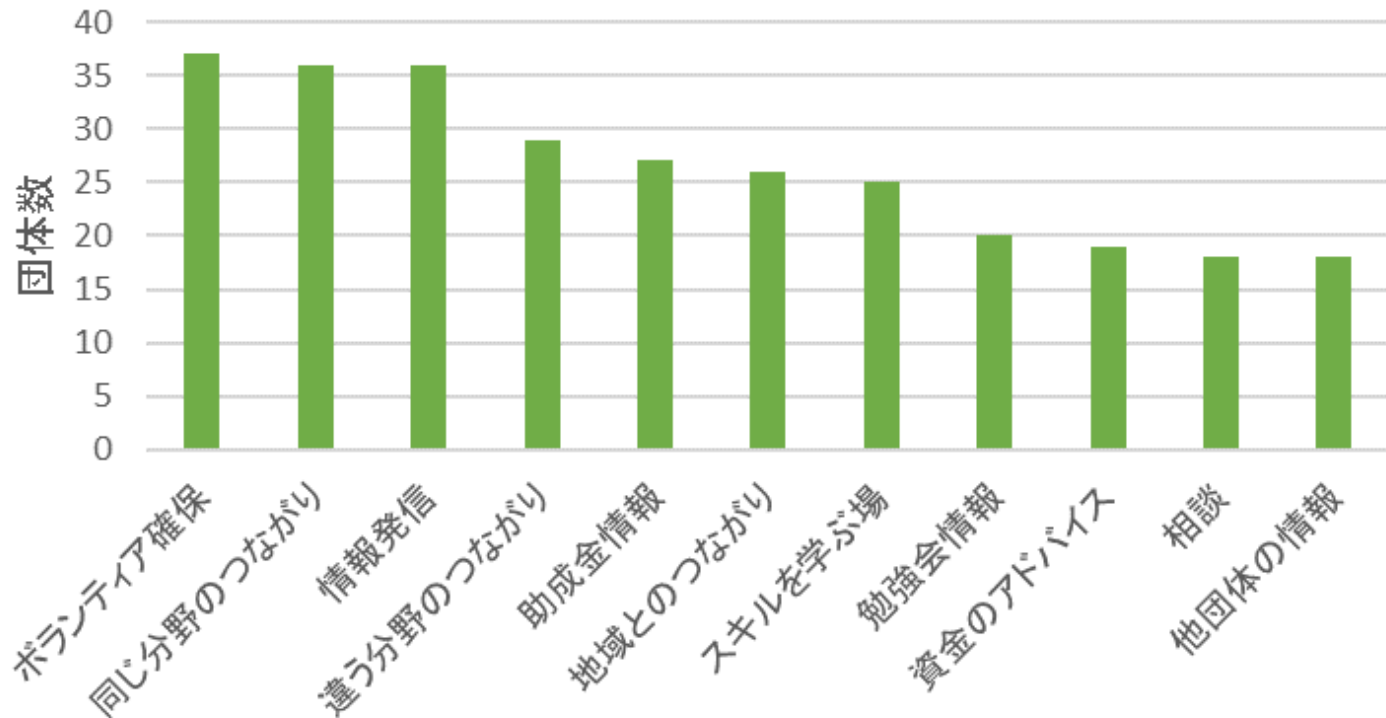


まちサポに期待すること

まちサポに期待することとして、

- ①ボランティアの確保 ②同じ分野のつながり ③情報発信
のニーズが高いことがわかった。

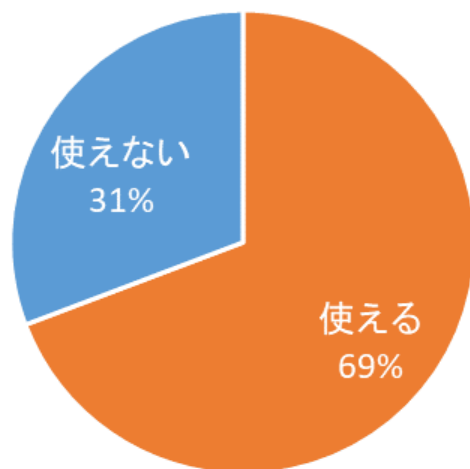
まちサポに期待すること



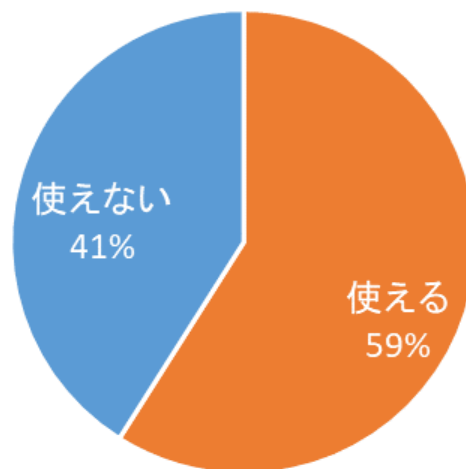
オンラインツールの利用状況

オンラインツールの利用状況については、「ウェブフォームによる参加申込やアンケート回答」の利用率がもっとも高かった。

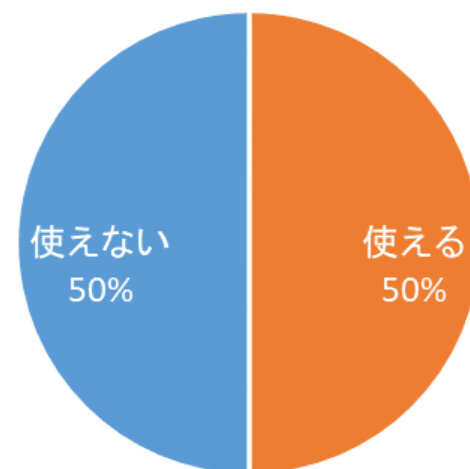
ウェブフォーム



オンライン会議ツール



YouTubeでの動画視聴



今後の方針

今回のアンケートを踏まえ、まちサポとして来年度以降、以下の点に取り組んでいきたいと考えています。

- ・ 同じ分野で活動する人・団体同士の交流の場づくり
- ・ ボランティアや仲間を募れる機会や仕組みづくり
- ・ まちづくりに役立つスキルを学べる講座の開催
- ・ ウェブサイトを活用した登録団体の情報発信